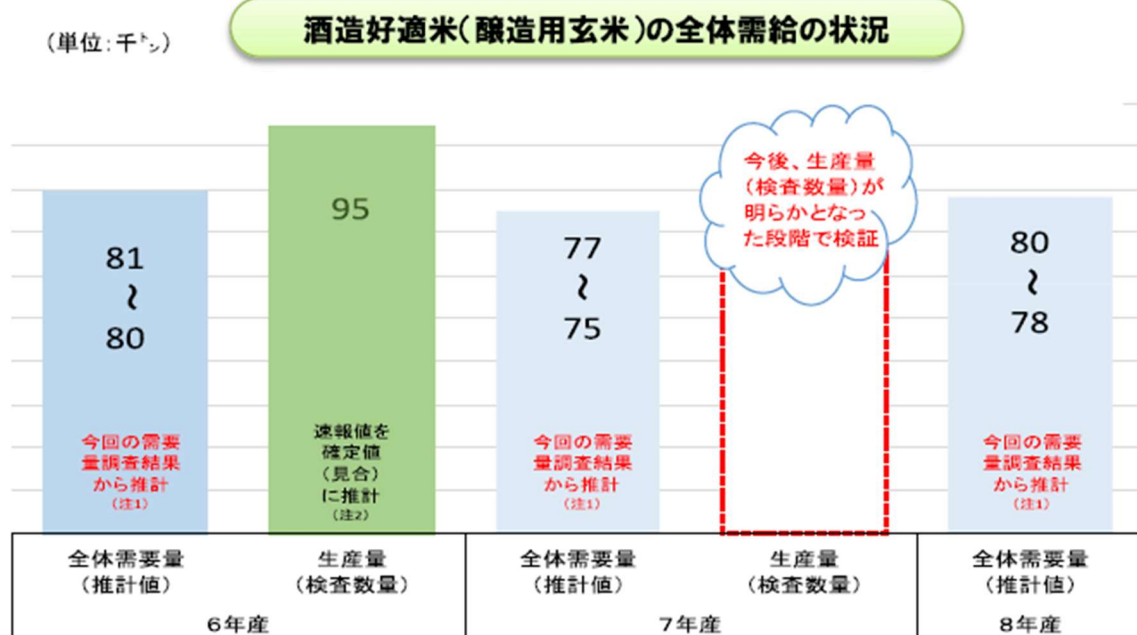


令和8年産酒造好適米 参考情報

兵庫県農業活性化協議会作成

1 全国の酒造好適米の需給見通し(日本酒原料米をめぐる状況(令和7年11月)より)

- 令和7年8月に実施した需要量調査によると、令和7年産の全体需要量(推計値)は75～77千トン程度、令和8年産の全体需要量(推計値)は78～80千トン程度と見込まれる。
- 令和8年産については、各産地において、今後、全体需要量の変動がある場合に留意するとともに、引き続き需要に応じた生産に取り組むことが重要。

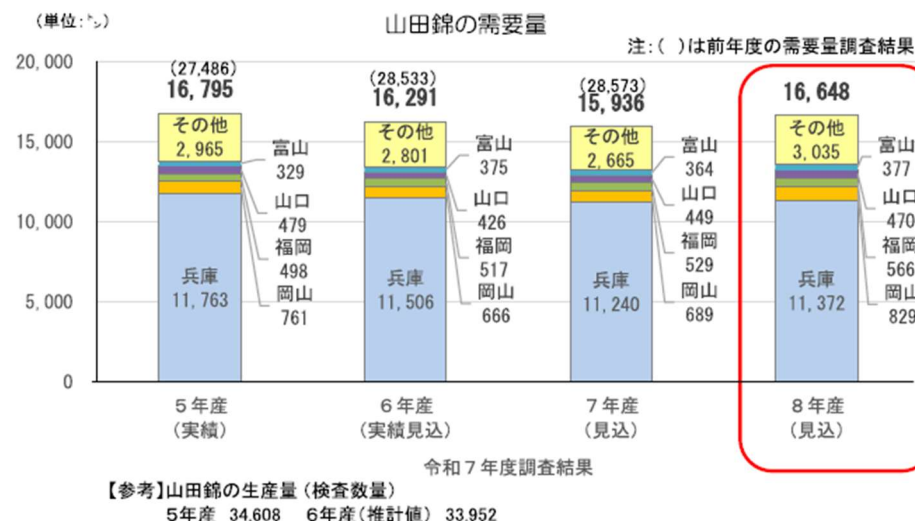


注1: 各年産の全体需要量(今回推計値)は、今回の需要量調査の数量ベース回答率が、令和5年産酒造好適米の全体需要量(79～81千トン)と今回調査の令和5年産の需要量(約59千トン)から約73～74%と推計されるため、各年産の今回調査結果の需要量を当該割合で除することにより算出。

注2: 生産量は、農産物検査数量(醸造用玄米)の値。ただし、令和6年産は、令和7年3月31日現在の速報値を直近3カ年の3月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計。

2 産地別の需要量調査結果(日本酒原料米をめぐる状況(令和7年11月)より)

- 令和8年産の兵庫県産山田錦の兵庫県産酒造好適米の需要量(見込)は、前年と同程度(11,372トン)となっている。



【その他参考情報】

○ 令和6年産酒造好適米の生産状況（日本酒原料米をめぐる状況（令和7年11月）より）

- 令和6年産酒造好適米の生産量は、約9.5万トンとなっており、このうち、兵庫、新潟、岡山、長野、秋田の5県で約6割を占めている。
- 酒造好適米の中でも、特に「山田錦」は全国の酒造メーカーからのニーズが多く、兵庫県は全生産量の54%を占めている。

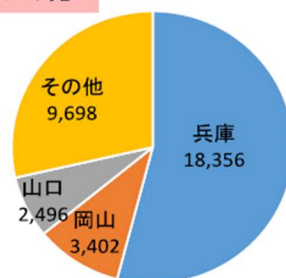
酒造好適米の産地別生産量の推移

（単位：トン）

	令和元年産	2年産	3年産	4年産	5年産	6年産	シェア
全国計	96,454	85,179	74,756	79,472	91,630	94,539	100%
兵庫	25,766	22,338	20,940	22,202	25,260	24,795	26%
新潟	12,000	11,223	8,855	10,409	11,508	11,221	12%
岡山	5,704	4,029	4,620	5,044	6,443	6,337	7%
長野	5,962	4,982	3,539	3,422	4,674	5,306	6%
秋田	5,010	4,613	3,964	3,667	3,927	4,309	5%
その他	42,012	37,995	32,838	34,727	39,819	42,572	45%

令和6年産酒造好適米の主要銘柄の生産状況

【山田錦】



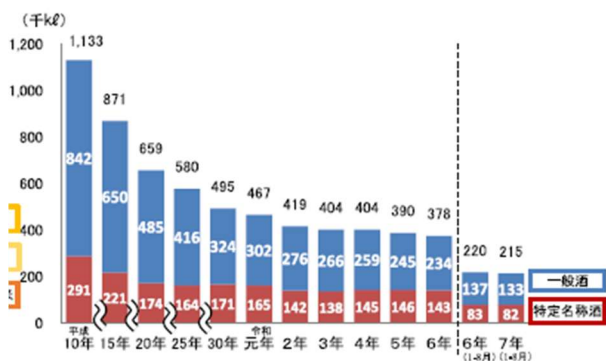
（単位：トン）

	6年産	シェア
兵庫	18,356	54%
岡山	3,402	10%
山口	2,496	7%
その他	9,698	29%

○ 日本酒の出荷状況（日本酒原料米をめぐる状況（令和7年11月）より）

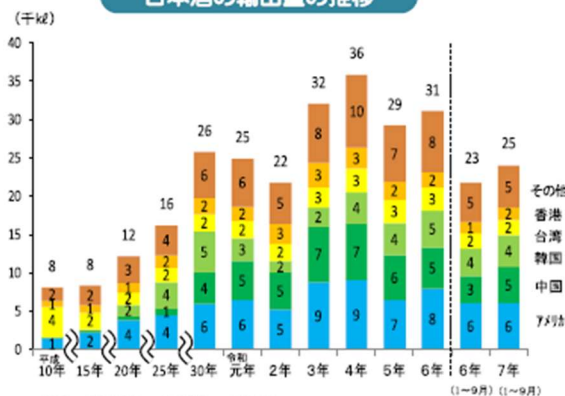
- 日本酒の国内出荷量については、減少傾向で推移。
- 令和7年（1-8月）においては、特定名称酒が対前年同期比▲1%、一般酒が対前年同期比▲3%と減少しており、日本酒全体としても、対前年同期比▲2%と減少。
- 輸出については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向で推移。令和6年における日本酒の輸出先国は80か国で、このうち、アメリカ、中国、韓国、台湾、香港の5か国・地域で数量及び金額の7割～8割を占めている。

日本酒の国内出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。令和6年は概算値。石川県のデータが令和5年12月以降一部未集計。

日本酒の輸出量の推移



資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。
注：ラウンドの四捨五入で計と内訳が一致しない場合がある。

◇ 兵庫県農業活性化協議会では、令和8年産酒造好適米の作付判断の参考としていただけるよう、国の需要量調査の結果等を基に、参考情報を提供しております。

なお、酒造好適米の生産については、酒造メーカーとの全量契約栽培が基本となりますので、地域の関係者や生産者の皆様には、これらの情勢を注視しながら、最寄りのJAや集荷業者等に早めに需要の動向を御確認いただき、売り先・行き先を確保したうえで取り組んでいただきますようお願いいたします。